



# チョウを呼びましょう

小平市では、市内に生息しているチョウや鳥たちが好む花や実のなる植物を庭に植えるなどして、これらの生きものたちの新たな生息空間をつくりだす「身近なビオトープづくり」をスタートさせました。まずはチョウにチャレンジしてみましょう。



## 説明1

- ① チョウの子どもである幼虫は葉を食べて成長し、大人である成虫は花の蜜や樹液などを吸って生きています。
- ② 市内にすんでいるチョウの幼虫や成虫が好む樹木や野草を自宅の庭やベランダなどに植えてみましょう。
- ③ 樹木の育つ高さを考えて植えましょう。プランターを利用した場合は小さめに育ちます。

## 説明2

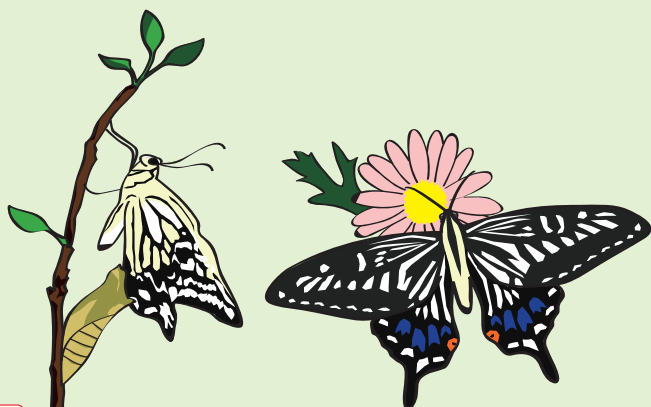
- ① 1匹の幼虫がサナギになるまでに食べる葉の量は、約20cm×25cmの面積の葉(ナツミカンやユズの場合は15枚から20枚)が必要になります。
- ② あまりに多く幼虫がついたら、飼いたい人に分けてあげましょう。
- ③ 苗を植えたばかりの場合、産卵がこれからになるので、観察できるのが数ヶ月後か来年になる可能性もあります。年に何回も発生するチョウが多いので、根気よく観察しましょう。

## 説明4

チョウの観察写真撮影などの記録をしましょう。市が用意した観察カードを利用してみてください。次の年の観察に活用できます。

## 説明5 チョウが好きな樹木や草花の一覧

チョウの名前	樹木(食樹) 草(食草)	花などの蜜 (吸蜜植物)
クロアゲハ	ユズ・サンショウ等 (食樹)	ノアザミ・オミナエシ・フジバカマ・ノコンギク・ヨメナ等  特にヤマユリなどユリ類はアゲハが好きです  クヌギやコナラ等の樹液
ナガサキアゲハ		
アゲハ		
モンキチョウ	シロツメグサ・ゲンゲ(食草)	
ツバメシジミ	ミヤギノハギ・ヤマハギ等 (食樹)	
キタキチョウ		
ウラナミシジミ		
ルリシジミ	アブラナ類(食草)	
ツバメシジミ		
ツマキチョウ	ギシギシ・スイバ(食草)	
ベニシジミ		
ルリタテハ	ヤマユリ等(食草)	



## 説明3

- ① サナギになったら、そのまま観察するか、サナギがついた枝を切り取り、風通しのよい飼育箱などに入れて観察しましょう。

(問合せ) 小平市環境部水と緑と公園課

所在地: 小平市小川町2-1333 電話: 042-346-9830 FAX: 042-346-9513  
メール: koen@city.kodaira.lg.jp ホームページ: http://www.city.kodaira.tokyo.jp



**アゲハチョウの一生のサイクル** (越冬期間を除きます。また、日数等には個体差がありますので参考にしてください。)

卵(7日~9日)→幼虫(約30日)→サナギ(約10日)→羽化→成虫→交尾→産卵(約15日)



**説明6**

- たまご** → たまごの直径は0.5mmから1.5mmぐらいの大きさです。アゲハは1.0mmぐらいです。
- 幼虫** → ケムシとかイモムシといったチョウの子どもたちです。木や草の葉などを食べて、脱皮をくりかえして育ちます。アゲハは4回脱皮し、1~2mmから50mmほどに成長します。
- サナギ** → この殻の中で成虫の体になります。まったく動けないので敵に見つからないように殻の色を周りの色に合わせたりします。
- 成虫** → サナギの中で育ったチョウがサナギの殻を破って飛び出します。これを羽化といいます。羽を広げると80mmから120mmほどになります。
- 交尾** → オスの協力でメスが卵を生むための行動です。
- 産卵** → たまごを葉などに産みつけることです。このようないとなみで命をつないでいきます。

※ チョウは種類によって、たまご・幼虫・サナギ・成虫の形態で冬を越していきますがアゲハチョウは、サナギで越冬します。4月あたりから成虫が現れ、年間5回ほど発生し10月中旬以降からサナギで越冬します。

**市内で見ることができるチョウたちの成長を写真にしてみました。**

アゲハ	越冬 サナギ			
ベニシジミ	越冬 幼虫			
ツマキチョウ	越冬 サナギ			
ルリタテハ	越冬 成虫			

写真提供者／アゲハ幼虫及び成虫 山田 眞久氏 アゲハサナギ 佐久間 聡氏 その他写真全て 鈴木 忠司氏

本パンフレットについて無断複製を禁じます。